

留学生の声エッセイ

経済学部 パク ジェヨン（朴 帝映）

<私の日本での留学生活>

皆さん、こんにちは。私は韓国の韓南大学から交換学生として来たパクジェヨンと申します。城西大学では経済学部で勉強しています。日本で留学生活を始めてからもう5ヶ月が経ちました。このエッセイでは春学期の間の経験とこれからの留学生活について話したいと思います。

今年の4月、日本に来た時はときめきとともにたくさんの緊張がありました。慣れない環境で生活しなければならないという恐怖、言語障壁を乗り越えるために感じる自分の負担と不安感などが多くて怖かったです。しかし、そんな怖さもつかの間、空港に留学生たちを迎えに来てくれたJISTと国際課の先生たちの親切さのおかげで安心することができました。

春学期の間、私はいろいろな授業を受けながら日本語の実力を上げ、日本の経済について学ぶことができました。韓国ではホテルと航空の経営について勉強しましたが、日本では経済学科に所属して経済について勉強してみると新しい感じがして、元の私の専攻とは全く違う新しい分野の知識を得ることができて良かったです。特に記憶に残った授業は「地域ボランティア論」でした。地域社会のために直接ボランティア活動をする授業なので「私が日本語でボランティア活動をまともにできるか」と心配しましたが、実際にしてみると言語障壁を越えて地域の人々と疎通する楽しさを感じることができて、留学生として新しい経験を積む面白さもありました。

授業の他にもJISTが主催するイベントに参加しながら、いろいろな人と交流できる機会がありました。言語交流イベントやバレーボールイベントなど、日本人学生と留学生の両方が楽しめるさまざまなイベントがあり、そのおかげで学校生活にも早く適応できたように思います。また、ルームメイトと旅行に行ったり友達とカフェを行ったりする日常を過ごしながら日本での生活をもっと楽しく過ごすことができました。



<日光バス研修>

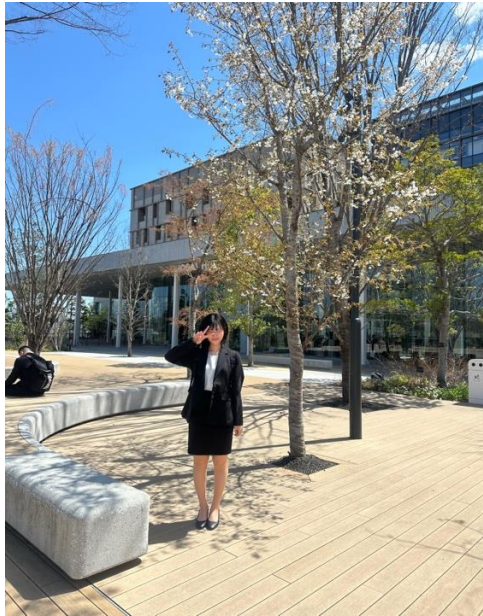


<ルームメイトと仙台旅行>

日本での5ヶ月間、私を一番大きく成長させたのは「経験」でした。私はもともと緊張し、人見知りする性格なので、日本に来てうまく適応できないという不安感が大きくて、日本語の授業で発表をする時に手探りしたり、他の人に日本語で話しかけるのが苦手でしたが、そのような状況を何度も経験して練習してみると、次第に自信を得ることができました。また、授業を通じて日本人学生たちと自然に交わりながら彼らの文化をもっとよく理解することができたとし、対話を交わす過程で私の日本語能力も前よりたくさん伸びて私の成長をはっきり感じるすることができました。

これから残った一学期の間はもっと積極的に日本文化を体験したいです。日本の色々な地域に旅行しながら各地域だけの文化と雰囲気を感じてみたいです。そして日本人の友達をもっとたくさん作って交流しながら日常の中で日本語で自然に疎通して日本文化を学んで行きたいです。そんなに大事な思い出も作って、私の日本生活をもっと充実させたいです。

今までの留學生活も多くの経験をしたようにこれから残った期間にも多くの経験をしてみたいです。城西大学での交換学生の経験は韓国に帰っても忘れられない大切な思い出になると思います。これからの時間も大切に、城西大学での生活を楽しく過ごしたいです！



< 入学式 >



< ボランティア授業での活動 >